

東教大 理学部 授業再開で厳しい関門

入学宣誓の再確認

教官が拒否者は受講させぬ

筑波大学及び紛争中の東京教育大学（筑波大学長代行）は八日午後、評議会議決、授業再開問題などを討議した。この中で理学部は授業を受ける学生一人一人に面接し、入学時にとつてある「誓約」を再確認し、学生の本心を確かめようとするという態度を再確認した。理学部は「誓約」は最近の大学紛争には受けない特異なものだけに、今後の成り行きは注目される。

スト学生に改心求める

解説 東京教育大理学部 議して行なつたという見方がある。八日の評議会で、

理学部では十日かかると見られる。四月部自治会執行部（日共系）を中心とする評議会は、三月生は五月から授業再開する意向だが、授業再開に理学部が学生を呼び戻す、授業再開を全面的に認めなければ何處でも授業再開に賛成し、認めなければ授業再開に賛成しない。教育当局は九日の教員会に決める。四月部では二月二十七日、機動隊を投入して封鎖を解除したため

も、機動隊を校内に警備させた。入り全面的に禁止している。また、授業再開後も機動隊を校内に警備させた。また、授業再開後も機動隊を校内に警備させた。また、授業再開後も機動隊を校内に警備させた。

たような形で起きた。しかし、入試中止から三月末の機動隊導入による封鎖解除まで重大事件については理学部がインシデントを認めてきた。とくに封鎖解除後、機動隊を警備させたのは、機動隊を打ち出し、理学部では卒業予定者や大学院生に特別優遇を認め、このさい大学が能く卒業生にリボンや称号をつけさせて学内立ち入り許可するという強硬な方針になっていた。

これにたいし文部省では機動隊導入に抗議して、学生との話し合いを強調、「戒厳状態のよきな学内では非常な授業はできない」として授業再開計画を学内正常化問題の

あにしている。高島学長代行をはじめ、理学部大では同じキャンパス内で教育が

教員会では「学生の暴力行為はあらゆる手段で排除することによって確保している。年度の受講のさいのチェックによってストや学内封鎖をしたような学生は、改心しないかぎり学内への立ち入りも許さない」ということに一段と強硬な方針になったわけだ。「学生を日々かかっている文部省への一種のモモンストレーション」で教育当局を教員もとむ。

この措置で大学側のいう条件をのまない学生は退級、卒業もできないことになり、活動派学生はもろくろ一般学生のなかにも強い反感がもてるものと予想されている。しかし、文部省でも現状では授業再開のメドがまったく立たず、一足りも全廃年。大部分が卒業延期ということになる。学期間の講義的対立が決定点になった教育大では同じキャンパス内で教育が

で接しない様子もさっさと、かたじけなく決断している。

ヨリ

紛争に心痛み ネットさん急死

東教大のドイツ語講師



ネットさん 四十五年 半生の ツケさん 日本人のドイツ語講師

さん。五月初九時すぎ、急性心臓マヒで亡くなった。

ネットさんは大正十三年東日するところ当時の東京南科医学校講師。続いて東京外語大に勤め二十九年から東京教育大講師。念語とドイツ文学史を教えたが、「ドイツ人のいいところを全部身につけていた。時間は初めから終わりまでキチンとやる。一日でも休むと妻は、ちゃんと言っていた。人間味の深い人でもあった」(東教大文芸部野村一教授。さる二月には多額の努力がむくわれ、勲四等瑞宝章を受けている。

ネットさんの死は昨年六月二十六日の学内紛争突入以後見られなくなった。同時に時間給の支給もストップ。お勤めとすじだ。だから収入の滞りは完全に断たれてしまった。ネットさんの生活をささえたの

は、ドイツ文化館から送られる妻マルガレーテさんへの恩給。マルガレーテさんは大正中期に東日して、長い間東京教育大でこれら数人をとって来た親日家のソフゾフ歌手門下から中山健一、浅野千鶴子などの英才を音楽界へ送りこんだ。この恩給はマルガレーテさんが数年前至大を退官した際、日本政府からくる恩給のあまりの少なさに驚いた門下生がドイツ文化館を通じて、特別として送られてきたものだった。

そのマルガレーテさんは三年前から慢性心臓病で病床にふたされた。最近はお病気が一段と悪化し、お手紙いさんの心づかいから夫の死も知らされていなかった。ネットさんの葬儀は日本人の友人と教員たちの手で八日午後一時から高川区北原川のドイツ教会で営まれる。